丹沢 早戸川 鳥屋鐘沢
２００９．５．３１
メンバー：Ｌ．志満、新井、神戸、田中、奥平（記）

　集合前日に本間橋まで入り親睦会を兼ねる予定であったが、雨が降りそうなので急きょシマ宅を拝借することにする。屋根があるっていいね。順次集まって仮眠した翌朝７時に出発。目的地までは一時間もかからない。下山場所となる林道わきで着替えて車をデポし、もう一台の車で目的の沢に近づくように移動する。この車もデポししばらく歩いて入渓点へ。入渓後暫くナメがあり、小滝が出てくるがそれを左からへつる。滝三段２０ｍも左から巻く。続いて８ｍ滝は斉藤さんリードで登る。人数が多いので私は右から巻く。巻き道はしっかりしている。滝上から見たが、この滝は最後の一歩が悪い。不安定なスタンスだが、皆思い切って左に体重をかけて抜けてきた。続く２ｍの滝はガイドには夏ならツッパリで越えられるとあるが、本当にそんなことできるのと思う。危ないので右から巻く。右の適当な段差から登ってみたが、滑りそうなので志満さんに一手のザイルを借りる。何とも情けない状況だが、シーズン始まったばかりだし、先日怪我の報告を受けているだけに臆病なほど慎重だ。次の３段２０ｍ滝も斉藤さんリード。幅広になった滝のすこし左からトイ状を約８ｍ登る。下のビレイ点に立派な金属のリングがある。中段から左を行けるのかと思って偵察してみたが少し難しそう。右に移動して残りの部分を難なく越える。さらに行くと８ｍ滝があるが登れそうにないのでこれは左から巻く。上部に行くと堰堤が出てくる。丹沢にも奥秩父に負けない、山深い感じの素晴らしい沢があるではないかと思っていられるのもここまで。沢を詰めて支尾根にあがろうとするとものすごいガレ場になり落石の危険がある。いかにも丹沢らしい。さらに、支尾根上にあがってけもの道だか登山道の薄いのを拾っていけるのは良いが、支尾根上で休憩しているとヒルに喰われている者が数人でる。やっぱり丹沢だったか。場所が分かるところまであがり丹沢観光センターにつながる登山道へ。この登山道が禿げあがっていて急ですごく下りづらい。丹沢は終わったのか。丹沢観光センターに着くころにはいよいよ本降りになり、着替えもままならないので観光センターの軒を拝借する。着ているものを脱ぐと、また衝撃の事実が。数量に差はあるがみんなヒルにやられている。斉藤さんに至っては都合十数匹を体中に巡らせていた。ヒルは登りのうまい人を好むのか。志満さんが裏丹沢にも良い沢がありそうだから、計画を立てたときに皆参加してねと、裏丹沢沢研究なるものを打ち上げそうであった。高速割引でどこも渋滞の中、アイデアとしては素晴らしいが、時期の再考が望まれる。

コースタイム：

7：00 **前シマ宅発**

7：50 **本間橋（着替え）**

林道途中で車デポ

8：20 **入渓～ナメ**

２m滝左からへつり

滝３段 20M **左から巻き**

滝８M **斉藤リード** 9：10

最狭部巻き右から、奥平てこずる

右幅広滝、登る部分トイ状８m

斉藤リード 9：30

２段目石伝いに右から巻く

滝８M **左から巻く**

堰堤 10：45

二俣 10：55 **右**

奥二俣 11：05 **左**

２奥二俣 11：20

12：40 **支尾根**

14：00 **駐車場着**

地形図：大山、青野原